

3 年 3 組 道徳科学習指導案

授業者 野原 淳司

1 主題構成表

主題名 感謝の気持ち

資料名 おばあさんときれいな歩道

■ 内容項目 B 感謝

家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。

■ 価値の分析

- ・自分の日々の生活は多くの人々の支えがあることを考え、広く人々に尊敬と感謝の念をもつことに関する内容項目である。
- ・よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。感謝の気持ちは、人が自分のためにしてくれている事柄に気付くこと、それはどんな思いでしてくれているのかを知ることから芽生え、育まれる。
- ・家族もそうだが、自分の生活を築いてきた先人として高齢者についての感謝の念を育みたい。
- ・指導に当たっては、自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、その人たちの存在意義に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。

■ 内容項目から見た児童の実態

(意識)

- ・児童は支えてくれている人に家族を挙げることができ、「ありがとう」という意識はもっている。
- ・学校生活では、登下校や給食の時など地域の人たちに支えられているという意識は広がってはいない。
- ・大きな声で「いただきます。」は言えるが、形式的になってしまっていて、感謝にはなっていない。

(要因)

- ・児童にとって、日常生活で支えてくださる人の話をするのではない。朝起きれば、食事の用意があり、登下校の横断歩道には地域の方々がいて、生活すべてにおいて「あたりまえ」になってしまっている。
- ・子どもたちは生活経験が狭く、限られた範囲内での生活が主流になって、社会にまだ目が向いていない。

■ 資料の分析

おばあさんときれいな歩道

- ・早朝、おばあさんが人々を通る前に、歩道の掃除をしている。この事実を知ったときのけんたの気持ちを考えさせる。
- ・楽しそうに掃除をしているおばあさんに「おはようございます。」と声をかけた。初めて出会ったこのおばあさんに、どのような思いで「おはようございます。」の言葉をかけたのかを考えさせることで、けんたのおばあさんに対する尊敬とさらに感謝に気付かせることができる。
- ・「おはようございます。」に込められた思いについて、多様な考えを引き出すようにする。

■ ねらい

日常の生活を支えてくれている人々がいることに気付き、そのような人々への尊敬と感謝の気持ちをもって生活していこうとする心情を育てる。

■ 展開の構想

- ・自分たちの生活はいろいろな人に支えられたり、助けられたりしている。どんな人に助けられているのかを想像し、価値の方向付けをする。
- ・おばあさんのそばを通り過ぎる時、どんな気持ちで「おはようございます。」と声をかけたのか主人公の多様な気持ちができるようにしたい。
- ・自分の生活を支えてくれている人たちに「ありがとう」の気持ちをもって、生活しようとする意欲を高める。
- ・交通指導員の石田さんに、どうして長い間交通指導員を行っているのか、どんな気持ちで池田町の巡視を行っているのか話を聞く。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問] 「おばあさんが一人で掃除を続けているのを見て、『おはようございます。』と声をかけたとき、けんたはどんな気持ちだったか。」という問いで、自分が主人公だったら、どんな気持ちで声をかけるのかを発表できるようにする。
- [表現活動] グループで話し合い、初対面なのにどんな気持ちで「おはようございます。」とおばあさんにあいさつをしたのか気付かせる。
- [深めの発問] 「おばあさんが楽しそうに掃除を行っているのを見て、けんたはどう思ったか。」と問い、おばあさんの心情を探る。
- [学習形態] 終末では、交通指導員の石田さんに指導員になったきっかけや毎日どんな思いで交通巡視の仕事をしているのか話を聞く。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学活「係活動」→道徳科「おばあさんときれいな歩道」→総合「大豆をしょうかくしよう」
日常生活において、様々な人に支えられていることに気付き、改めてじっくりと感謝の気持ちについて考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	人に支えてもらっていることを思い出し，発表する。 ○ どんな人から支えてもらったことがあるのか，それはどんなことか。 「わたしたちの道德」のP 82・83を参照する。 ・ 家族がいる。お医者さんや消防署の人たち ・ 地いきのおじいさん・おばあさんたち	「わたしたちの道德」を用意する。 ・ 生活の中での様々な場面を想起させる。 ・ 直接目にする人，自分たちの知らないところで支えてもらっている人を示し，価値への方向付けを行う。
展開前段	「自分たちを支えてくれている」方々について考えよう。 資料「おばあさんときれいな歩道」を読んで，「おばあさんが歩道を掃除していた。」という部分について話し合う。 ・ おばあさんがいつも掃除をしていたんだ。 ・ 問題が解けてスッキリした。 ・ 楽しそうに掃除をしている。 おばあさんが一人で掃除を続けているのを見て，「おはようございます。」と声をかけたとき，けんたはどんな気持ちだったか。 ・ すごいなあ。 ・ ありがたいなあ。 ・ 知らない間に掃除をしていたんだ。おかげで気持ちいいよ。 楽しそうに掃除をしているおばあさんを見て・・・ ・ 毎日朝早く，掃除をやってくれて，すごいな。 ・ ありがとうございます。 ・ きっと，みんなが喜んでくれると思っている。 ・ 人のために掃除をしているんだな。 ・ ぼくもやろうかな。 ・ 感謝の気持ちを込めて，挨拶をしよう。	・ 教師が範読する。考えたいところ（自分とにいていところ・自分とは違うところ・なるほどと思うところ）に線を引く。 ・ 範読後，主人公が「道がどうしてきれいになっているのか。」について，普段の生活における気付きもあることをおさえる。 ・ グループで話し合い，どのような気持ちで声をかけ通っていったのかを交流する。 ・ 歩道がきれいになっていることをしっかり押さえる。 ・ 朝早く，みんなが使う歩道を掃除をしているという場の設定を再確認する。 【深めの発問】 おばあさんが楽しそうに掃除をしているのを見て，けんたはどう思ったか。 ・ 人のためにという意識をもって，掃除をしているおばあさんに尊敬や感謝の気持ちをもつようになるけんたの心情を確認する。
展開後段	○ 道德ノートに，みんなの生活を支えてくれている人たちにどんなことを思ったのか書こう。 ・ これからは，元気な声で挨拶をします。 ・ いつも，わたしたちのためにありがとうございます。	・ 生活の中にも，おばあさんと同じような人がいることに気付かせる。
終末	○ 交通指導員の石田さんを迎え，毎日どのような仕事をし，どんな気持ちから続けているのかを話を聞く。 石田さんの話 交通巡視員を行うきっかけとなった話，長年どんな気持ちで毎日町内を回っているのかについて。	・ きっかけ，何のために，どのくらいの期間指導員を続けているのかを理解することができる。 ・ 長年に渡り，町の交通指導員を行う石田さんの気持ちを理解することができる。 変容の見届け ・ いつも，「あたりまえ」に生活してきているが，自分たちの知らないところで，多くの人たちが見守っていてくれているということを知り，「ありがとう」の気持ちをもっている。

3 年 2 学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 感謝	社会	農家の仕事		
	社会	店ではたらく人		
	社会	工場の仕事		
	道徳	おばあさんときれいな歩道		
	総合	大豆をしゅうかくしよう		
	日常	登下校時の指導員さん		
	日常	給食の校務員さん		
	日常	はりんこそうじの上級生との関わり		

< 2 学期所見 >

評価のしかた 視点 B 感謝

- | | |
|-------|--|
| 道徳の授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公が、そうじをしているおばあさんに「おはようございます。」とあいさつをしたときの気持ちを発表することができたか。 ・ 石田さんの話や自分たちの生活を支えてくれる人たちへの自分の思いを書くことができたか。 |
| 日常生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校では、指導員の方に元気にあいさつできているか。 ・ はりんこそうじでは、上級生の人の指示に従って静かにそうじをしているか。 |